



いのち・性・AIDSを見つめる

Living with AIDS

205 号のニュースレター

1 面～2 面	第 1 3 回川崎 S T I 研究会参加報告 中野久恵
3 面～5 面	横浜市エイズ相談対応研修会参加報告 堀尾吉晴
6 面～7 面	H I V感染者障害年金停止の新聞報道（紹介）／みんなちがってつながる輪参加報告 /ご寄付をいただいた方（紹介）／お知らせ
8 面	A N Y 会員の皆さまへお知らせ

第 1 3 回川崎 S T I 研究会参加報告

2 月 1 8 日に行われた表記研究会に A N Y から 6 名が出席しました。

最初の報告は、

『疥癬— S T I から施設内集団感染まで』について国立感染症研究所ハンセン病研究センター石井則久先生からでした。

疥癬は、ヒゼンダニが皮膚の表面に寄生して起こる、かゆみを伴う皮膚病です。

2 0 1 5 年にノーベル賞を受賞された大村智さんが静岡県の川奈ゴルフ場近くで採取された土壌から検出された放線菌からつくられたイベルメクチンが治療薬として有名です。

ヒゼンダニは、2 週間のサイクルで 2 ～ 4 個の卵を毎日産みつけます。皮膚の表皮に寄生します。潜伏期は、1 ～ 2 ヶ月。

肌と肌を接触することで感染します。寝具を共用する、雑魚寝をすることで感染します。

ヒゼンダニは、0. 3 ミリで肉眼では見えないが、皮膚表面に白い筋状の V 字サインをたどると「疥癬トンネル」を見つけることができると映像で示されました。疥癬トンネルをたどった先にヒゼンダニがいる。仮に皮膚にヒゼンダニが付着したとしても皮膚

内に侵入するには30分はかかるので、感染予防としては、手洗いが重要と話されました。

疥癬には、通常疥癬と角化型疥癬がありその違いなどについてスライドで説明があり、以下にその区別についての表を載せます。

【通常疥癬と角化型疥癬の違い】

	通常疥癬	角化型疥癬
寄生数	1, 000匹以下	100万～200万匹
宿主の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
おもな症状	丘疹、結節	角質増殖
かゆみ	強い	不定
発症部位	頭部以外の全身	全身

次の講演は、

『最近の全国および川崎市における梅毒、クラミジア等のSTIの動向およびジカウイルス・風疹などの妊婦感染による児への影響』について川崎市健康安全研究所の岡部信彦さんのお話でした。

梅毒の感染数は、昨年（2016年）4,518人を数え、ここ数年増加傾向になっている。2017年の感染も年間で8000～1万人に達するのではないかと危惧されているという。梅毒の感染増加の背景については、難しいが、ヨーロッパ、中国（2016年感染数40万例）でも感染が増えていると話された。

昨年、ブラジルでのオリンピック開催に伴い流行が心配されたジカウイルスの伝播経路は、1947年ウガンダで発見されマレーシア、パキスタン、インドネシアを経由しその後、ミクロネシア、ポリネシアから2014年にブラジルに伝わったとされている。

川崎市の風疹流行に伴う緊急対策としての予防接種事業の説明があった。風疹に罹ったことのない人や風疹の予防接種を受けたことがない人を対象に、ワクチンを低額で受けることができる事業です。妊婦が妊娠初期に風疹に感染することで胎児への深刻な影響が出ることがありその予防として緊急に必要な事業として位置付けられています。（中野久恵）



横浜市エイズ相談対応研修会への参加報告

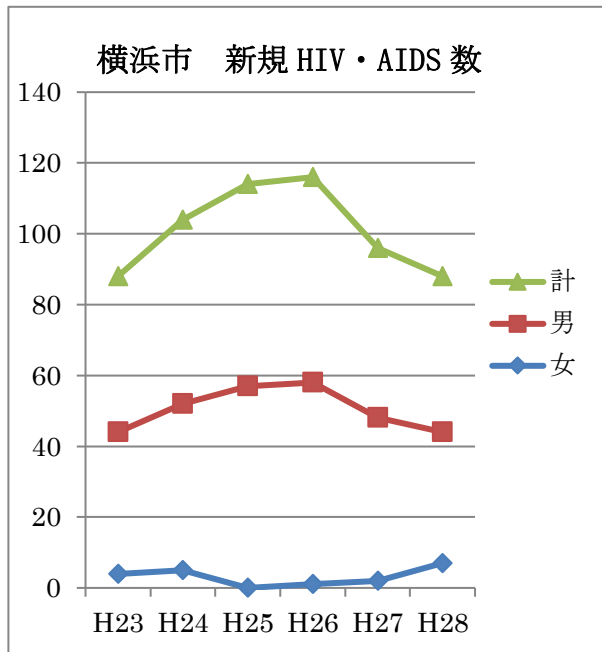
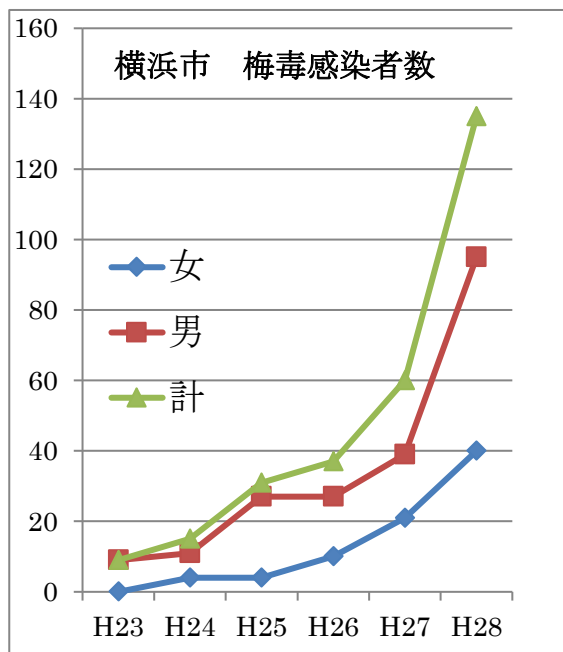
事務局長 堀尾 吉晴

1月13日の14:00~17:00で、横浜市健康安全課の主催で表記の会が行われました。集まったのは市内各保健所の相談担当の方1名ずつですが、多くは保健師の方ですが、事務職の方もいらっしゃいました。最初に健康安全課から横浜市の状況とエイズ対策の話があり、続いて私が「相談の実際」、SHIPの星野さんが「MSMの抱える課題」、市のエイズカウンセラーの天笠さんが「HIV陽性者の抱える課題」と、30分ずつの3つの講演が行われました。その後、参加者は3つのグループに別れ、45分のディスカッション。講師も15分ずつ3つのグループに参加しました。

参加者の皆さんは意欲的で、とても面白い会でした。その中で、お知らせしたほうがいいかなと思ったことを記載します。

① 横浜市の感染状況

最初の報告は、健康安全課にいらっしゃる保健師の竹内さんの報告でした。新規感染者状況は2014年の58名が過去最高でしたが、15年48、16年44と減少傾向です。但し、保健所などの検査件数も4380、3354、2888と漸減傾向なので、感染者減を素直に認めて



いいかという疑問も提示されました。検査件数の減については、必要と思う人は大体したので減っているのではという考えもありますし、2013年に全国で1590人と過去最高を記録した年の保健所での検査件数は前年比では微増で、翌年検査数はかなり増えましたが、感染数は減少しているように、検査数と感染数は決して比例してはいません。もちろんもっと検査を受けに来てほしいことは言うまでもないですが。

気になったのは、**昨年の女性の感染者数が7名と過去10年間で最高**という点。過去5年は4、5、0、1、2だったのですが。年齢は30代40代がそれぞれ3人で50代が1人でした。拡大しないようにしないと。

② 陽性者の抱える課題

エイズカウンセラー天笠さんは、ボランティア学校で毎年呼び出している市大病院のSWの方と同室の方ですが、その話からいくつか。

- ・陽性者の方は、ショックと不安から、日常よりも敏感になっているので、対人関係でのストレスが高まる。→感染不安の相談者にも言えますね。
- ・就労にまつわる課題では、通院日が確保できるか、ばれないか、障がい者雇用枠だと昇任、昇格、収入に差が出てくるのではなどの不安。
- ・感染者の抱える課題の多く（親の介護、自身の高齢化など）は一般的な課題。そこに、感染しているということで不安を増幅している。
- ・「生きづらさ」を多くの感染者が抱えているが、社会の「偏見、差別」の存在が根にある。
- ・「話せた」、「聴いてもらえた」、「分かってもらえた」ことが、回復の力になる。→相談の大切さ。

③ 保健所での電話相談

昨年の横浜市での相談件数は4406件という数字が出されました。仮に18の福祉保健センターで割ると、1所当たり約245件。開所日を年間250日とすると、1日に1件という平均になります。もちろん場所や、季節での変化はあるでしょう。

ラストのグループディスカッションでは、そこででの対応についての、参加者の方々のさまざまな感想、質問に出会えました。

ANYの電話相談と違い、保健所では、電話相談のブースがあるわけではなく、相談担当者がそのために電話の前に常駐しているわけではないのです。原則保健師さんが対応なのですが、保健所はHIVのためにだけあるわけではなく、保健師の業務も多岐にわたるので、電話のそばにいないとは限らず、窓口事務の方がとって、保健師を探してもいい場合には、事務の方が話を伺うこともあるようです。その場合に、職員全体が正し

い情報を伝えられるレディネスがあるか、相談のありかたについての共通認識があるかが問われると思います。

保健所の業務は極めて広く、私たちのようにH I V、A I D Sに特化しているわけではありません。負担の大きさは大変なものでしょう。でも、参加された事務職の方も意欲的でした。

④ 私の話

講師として呼ばれて、「電話相談の実際」というタイトルでしたが、A N Yで受ける相談の件数、内容、年齢層、性別、内容、対応、所要時間など、いろいろ具体的に紹介しました。

相談の中に複数件ある「検査での注射針の使い回し」については、「当然そんなことはないのだけれど、受ける人は何でも不安の材料にしてしまう。できれば、血液採取の直前に、被検査者の目の前でケースから注射針を取り出してシリンダーにつけるようにしていただくと謂れのない不安がなくなります」とお願いをしました。また、相談窓口で手に余るような内容であれば、A N Yや予防財団などの窓口を紹介してもと・・・。

最後に、医療費の話で、「25歳で感染、投薬開始、75歳で死亡とすると、年間医療費は約250万円。50年間で1億2500万円。7割の8750万円は健康保険で、自費が3750万円。障がい者認定で月に1万円を自己負担とすると、行政負担が3150万円、自己負担600万円になる。1人感染を防げれば、それだけの財源を節約できることになる。もっと予防、啓発にお金をかけても」と結びました。

HIV感染者障害年金の停止について・・・新聞報道より

薬害エイズ訴訟の和解（1996年）から20年になります。和解訴訟の中で薬害被害者を支援する「はばたき福祉事業団」が誕生し支援を行ってきています。96年の和解時には、薬害被害に対して一時金4500万円が支払われ、エイズ未発症のH I V感染者には月3万～5万円程度の「健康管理費用」が出ています。しかし、これだけで生活はたちゆきません。

これらの状況の中で、H I V感染者への障害年金の認定も厳しくなっていることが毎日新聞の報道で明らかになっています。障害年金の新規申請で、障がい1、2級の認定

率は、98年2月～03年3月の平均は48.6%だったが10年3月～14年度の平均は28.19%と4割減ったそうです。ここ5年間の申請は年平均145件で、申請者は性感染者が多く薬害被害者も含まれています。薬物療法の進歩でエイズが慢性疾患になったことと関連があることが想像されます。

毎日新聞の報道では、薬害エイズ被害者の男性(46)は、月6万4400円(当時)の障害基礎年金を2014年末から約1年間止められたと話されています。現在、体調も万全ではなく週3回の塾講師をするのがやっとで年収は100万円を切るなかで親の年金も併せて綱渡りの状態と報道されています。

毎日新聞のコメントに若林チヒロさん(埼玉県立大学准教授)は、「治療の進歩で体調がよくなる人が増え、認定が減ったのだろう。病状や偏見で働けない状況を、医師が甘えだと誤解し、薬害も知らずに診断書を書く面もある」と指摘しています。

高齢化社会を迎え社会保障費(年金、医療、介護、生活保護など)が膨らみ財政の負担になっています。ANYの活動は、性の健康の保持のために様々な活動を行っています。感染者を増やさない取り組みが改めて、財政的負担の面からも重要となっていると感じました。(中野久恵)

みんなちがってつながる輪 参加報告 ～障害者差別解消法の下で～



2月19日に表記事業が栄区であり参加しました、その一部をお伝えします。

開会のあいさつの中で、伊藤泰子さん(栄区精神保健福祉を考える会)は、この会を開催する趣旨について、28年4月から障害者差別解消法が施行されましたが、この中で「合理的配慮」とされている部分を学びたい、そして津久井やまゆり園で起きた事件に触れ、このような事件は許されないこと、二度とあってはならない、その意味も込めての会となるようにと話された。

「ひきこもりから障害者差別解消法へ」と題して視覚障害を持つ三嶋伸昭さんから話を聞いた。冒頭で「この会場まで公共交通機関で来ましたか、それとも自家用車で来ましたか」と質問がありました。「公共交通機関で来た人」と問われ、挙手をする人もいます。全盲であると自己紹介をされたのに会場では、そのことに思い至らなかった一場面でした。「私は見えませんので、声を出して返事をしてください」と改めて質問されま

した。このように私たちは、自分の思い込みで相手の障害に気づかずに日常を送っていることもあります。

障害者差別解消法により一人ひとりの困りごとに合わせた「合理的配慮」が行政・事業者に求められるようになりました。「合理的配慮」は、高齢者や障害者のためにあるものではありません。例えば、私は見えません。もし仮に、自宅前からこの会場まで点字ブロックがあつたら、私は自分で歩いてくることができます。目が見えないという障害は個人にあるが、社会モデルでは行動の制限を受ける障壁が社会にあると考えます。その社会的障壁を本人のニーズに応じて「合理的配慮」をもって取り除いていくことが求められます。多くの示唆を得られる指摘でした。

その後、「普通と普通でないこと」と題して精神科医の泉谷閑示さんに質問する形で進められた。

『私は、人目が気になる』という質問に対して、「人目を気にする＝社会化」である。人目を気にしない時期から、気にするようになるにつれ社会化が図られ思春期はそれがピークに達する。会場からの質問で『引きこもりは、社会化が失敗したのか、それとも自分らしさが失われているからか』に対しては、「自分らしさが失われているからです」と回答された。ヒヨコが卵の殻を割って出てくるが、自分の整理をしている、自己否定をどう整理していくか、辛抱強く出ていける（殻を破る）時を待つのがよい、とのことでした。他にも質問・回答の順で進行したのですが紙数の関係で省略します。（中野久恵）

ご寄付をいただいた個人・団体

以下の方々より多大なご寄付をいただきました。感謝するとともにここにお名前をご紹介します。

ステイト工業様 岡安敬夫様 (有)直喜屋 永井昌子様
北原不動産 北原美智子様 (株)小松鉄工所様 市川由美子様
(有)まるこ家具店様 (株)笹田組様 望月木材(株)望月明様
横浜商工会議所様 北村勝彦様 田中誠司様 屋山鳩子様
伴整形外科院長 伴孝様 柴田日出子様 石井史恵様

お知らせ

☆ 電話相談件数：12月51件 1月51件

☆ 相談部会総会&事例検討会のお知らせ

日時：3月11日(土)13時15分～

会場：横浜エイズ市民活動センター会議室

*相談部会の方の参加をお願いします。



ANY 会員の皆様に〈バザー開催〉のお知らせ

理事長から、大量の中古衣料（一部新品も）が寄付されました。

Tシャツ、ポロシャツ、ズボン、スラックス、スカート、ハーフパンツ、
コート、セーター、トレーナー、ワンピース、ベスト・・・250点近くあります。

今後、フリーマーケットなどで販売し、運営資金の一部としたいと思います。以下の日程で内覧会を行います。会員やお知り合いの方に優先的に販売します。

日時：3月1日（水）13：00～14：30

会場：横浜AIDS市民活動センター

今回は、シャツ中心です。

Tシャツ、ポロシャツ、カッターシャツなど布地も出します

お暇があれば、家族や友人の方を連れてきていただいて、気に入ったらお買い求めくださいませ。値札は付いてません。（言い値？）フリマに出すときの値段設定にもなります。よろしくご協力を！！他にどんなものがあるかは、わかるようにします。それらで希望があれば、後日設定します

【今後の予定・実施済も含む】

2月13日：横浜市エイズ相談研修会講師依頼 担当堀尾

2月18日：筑波大学附属高校授業見学 H A A T A Sと打ち合わせ 担当堀尾

2月21日：横浜市立樽町中学校出前講座（センター委託）担当中野

2月23日：横浜市立本郷中学校出前講座 担当中野

3月23日：厚木西高校出前講座 担当堀尾



ANYニュースレター Living with AIDS

編集発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

Tel：045-201-8808 Fax045-201-8809

ホームページ：<http://www.netpro.ne.jp/any/> e-mail：any@netpro.ne.jp